## 海津にいな・前我孫子市議

# がんばろう！我孫子

### 〇放射能から子どもを守る

☆柏の父母の皆さんが作る除染に取り組む市民団体にお話を聞きました。

☆藤村靖之先生の､「放射能から子どもを守る講演会」を聞きました。

☆震災後放射線量を測定し、我孫子の値が高いことを知りました。

### 〇原発問題を考える

☆原発問題のあり方を考える若者たちのハンストを応援します。

### 新緑号レポート

### 〇被災地を応援しよう

☆被災地支援のため、庭先ガレージセールを行います！

## 放射能から子どもを守る

### トピック１　☆柏の父母の皆さんが作る除染に取り組む市民団体にお話を聞きました。

今大きな話題となっている子ども周辺の除染。その除染に市と協力して取り組む柏の父母の皆さんがいます。彼らによる子どもの遊び場の除染や公園の放射線量を測る定期的な取り組みが続いています。

市役所は事故直後には「線量は問題ないレベル」というばかりで、我が子の健康被害が気が気でならない父母の皆さんは市に対して「対策が遅い」と批判していました。そのような不安を共有する方々が見知らぬ者同士でもインターネット・携帯メール等でつながり、昨年６月には１万人超の署名簿を添えて市に対策を要望するまでになりました。今では、「地道な取り組みに頭が下がる」と市から様々な協力体制を取ってくれるようになったそうです。

市は７月、小中学校の除染を指示。９月には市長が「不安に適切に対応できていないとのお叱りを受けます。大変申し訳ありません」と異例の謝罪文を市広報に掲載し、両者の歩み寄りのきっかけが出来ました。１０月には、若い父親たちがツイッターやブログで除染ボランティアへの参加を呼びかけました。

会の代表である会社員の父親は「子どもたちと柏に住み続けたい。行政任せにせず、悲壮感ではなく明るくやりたい。ココ掘れワンワン隊と名づけて、疲れないやりがいのある成果を出したい」と言います。

市職員が測りきれない広大な公園を市と同じ方法でり記録として写真データにする「柏計測隊」も、市がそのデータで線量の高い場所から除染するという、連携体制を取るようになっています。柏市放射線対策室長は「市だけでは手が回らない。本当に助かる」と話しています。

放射能汚染は大きな不安を市民に与えましたが、そのような中でも初めて会った市民同士が子どもの為に動き出し、シニアの皆さんもサポートしています。我孫子でも同様に、子ども達を守りたいと親たちが市や市議会に働きかけを行っています。

＊国は東北と関東地方の８つの県の 102 の市町村を汚染状況重点調査地域に指定し（船橋、市川は認定を辞退）、除染作業の費用を国が負担する。東葛地区の各市では除染計画を策定する。

### トピック２　☆藤村靖之先生の、「放射能から子どもを守る講演会@アビスタホール」を行いました。

【海津にいなブログ（2011 年 9 月 3 日）を検索して頂くとインターネット動画、概要がご覧になれます。】

藤村靖之先生は、科学者として脱原発を４０年間主張し続け、電気を使わないで楽しく暮らせる生活を追求し、環境ベンチャービジネスとして一時代を作ったことでも知られています。実際にマキを割り、電気を使わない冷蔵庫を開発するなど、スローライフを自ら公開しています。

先生は原発事故後、子どもを守ろうと自身の住んでいる那須町で昨年 5 月に「子どもを守るプロジェクト」を開始しました。このプロジェクトの中でテキストを作って市民グループの勉強会を開き、自主的にあらゆる場所の計測をしています。

昨年８月この藤村先生を我孫子にお招きして、先生や那須の父母の皆さんの取り組みとホットスポットと呼ばれる我孫子市の状況にどのように対処して行けば良いかについてお話を伺いました。

改めて動画を見ながら話を聞き返してみると、先生の主張の根幹が科学者の良心に基づくものであることが良くわかります。「結論がすぐに出ない議論をしているより、子どもの未来に関わるのであるから厳しい値を見るべきである。」このような先生の言葉から、方向を探る手がかりを持てました。

### その時　☆震災後すぐに放射線量を計測し、我孫子の値が高いことを知りました。

昨年４月、ロシア人の知り合い経由でガイガ―カウンターを入手しました（ブログ 2011/4/17 に掲載の写真）。

これで市内外の計測を行い、東北道のインターでや宿泊先などでは我孫子より値が低い所もあることに驚いたことを思い出します。その後我孫子・柏がホットスポットと呼ばれるようになったのは周知の通りです。